

ぬづ・まさし 歴史家。明治四十二年十一月十八日東京生れ（一九〇一）。本名楠津止志。筆名は初のぬづ・まさし、他に坂、阪、筑紫明、鈴木恭等。臺灣で育つ。昭和七年京都帝國大學文學部史學科卒業後フランスへ渡り、翌年歸國。十年創刊の『世界文化』に執筆。翌年文部省維新史料編纂局入りも十年検擧、十四年出獄後應召。戦後日本民主主義科學者協會に加はり、現代史、天皇制の研究に従事。

著譯書 『印度支那の原始文明』（本名、昭和十八年二月）『河出書房』、『フランスの人民戦線』（昭和二十二年二月十五日民主評論社）、『現代世界の史的構造』（合著・東大歴史學研究會編、昭和二十三年十一月十五日東大協同組合出版部）、G・チャイルド著『文明の起源』全二冊（譯、上・昭和二十六年六月十五日、下・七月十五日岩波書店「岩波文庫」）、『天皇家の歴史—神代より平安朝まで』（昭和二十八年七月十五日新評論社）、A・C・ムーアハウス著『文字の歴史』（譯、昭和二十一年二月十七日岩波書店「岩波新書」）、『批判日本現代史』（昭和二十二年一月二十一日日本評論新社）、マチエ著『フランスの大革命』全二冊（市原豊夫共訳、昭和二十二年十一月五日）『二十四年十一月二十日岩波書店「岩波文庫」』等。

